

「職人の技」 生かした家づくり



初めて開いた見学会の様子

信州職人学校（県建設労連主催）で伝統的な大工の技術を学び、「職人の技を生かした仕事をしたい」と一念発起し、それまで勤めていた松本市内の工務店から独立した高野実さん（37歳、たかの建築・松本市）。独立後、元請として初めて手掛けた住宅が完成したことから、「このほど見学会を開いた。」

松本市寿豊丘に新築した住宅は、30歳代夫婦と子ども2人が住む木造2階建て・約40坪。土台や柱には木曽ヒノキ、梁や桁には東信地域のカラマツを使った。継手、仕口は自ら刻み、伝統構法の木組みによる「丈夫で長

の技が生かされている。職人学校の公開講座に何度も参加し、伝統技術に対する造詣が深い建築士の杉本卓磨氏に設計を依頼。刻みや建て方は、職人学校で共に学んだ仲間たちに仕事を頼み手伝わってもらった。「技術を生かした家づくりへの思いを共有できる仲間たちの存在は心強い」という。

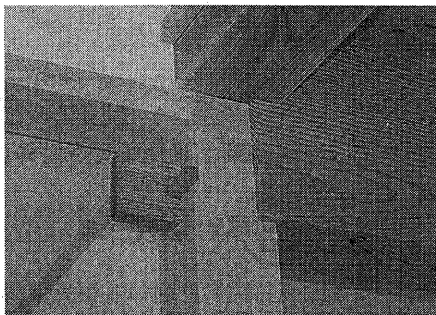
独立し初の見学会

信州伝統大工

高野 実さん



「職人の技を生かした仕事をしていきたい」と独立した高野さん



伝統技術の「鼻栓」

年住み継ぐことができる家」を目指した。「鼻栓」など、室内の随所に伝統的な技術が施されている。以前から「大工の技術があまり必要ない」プレカット主流の家づくりに疑問を感じていた。そんな思いから信州職人学校で学ぶことを決め、仕事や休日の時間を削って通い、苦勞の末、信州伝統大工（1級）に認定された。職人学校で「腕一本、技術で仕事をしていく」講師の姿や言葉に勇気付けられ、「元請でやってみよう」と独立を決意した。

今回の住宅では、